

2 施設マネジメントの推進

現状と課題	本市では、高度成長期を中心に多種多様な市設建築物の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているが、施設の老朽化が進み、今後多くの施設が更新時期を迎え、施設の維持管理や更新・建替えに要する費用が増大することが想定される。 このような中、本市では「大阪市公共施設マネジメント基本方針」や「一般施設の将来ビジョン」を踏まえて、将来の人口推移などを見据えながら、中長期的な視点にたって公共施設の総合的かつ計画的な管理を行っている。 また、4年度には施設所管所属が主体となって全市的観点から将来の施設の方向性について検討するための指針として「施設のあり方検討のための試行ガイドライン」を策定している。 中長期的な視点に立った持続可能な施設マネジメントの推進に向けては、土地を含めたアセットマネジメントの観点や複合化・多機能化の考え方も踏まえた資産の効果的かつ効率的な活用・運用に継続して取り組むことが必要である。
戦略・取組の方向性	【戦略】 施設利用者の安全・安心を確保するとともに、資産情報の効率的な維持（更新）・管理や、施設のあり方検討の試行実施を踏まえたPDCAによるガイドラインの強化を図りつつ、庁内関係組織や関係所属と連携しながら、施設所管所属による施設のあり方検討を計画的に実施し、中長期的な視点に立った持続可能な施設マネジメントを行う。 【取組の方向性】 ① ノーコードツールを活用した資産情報の維持・管理 ・資産情報の一元化・見える化の取組として整備してきた一般施設の基本情報や一定規模以上の施設に係る資産カルテなどについて、ノーコードツールを活用したシステム化により、維持（更新）・管理の効率化を図る。 ② 施設マネジメントの推進 ・アセットマネジメントの観点を踏まえた施設の活用・運用を推進するため、庁内関係組織との連携、資産情報の一元化・見える化、複合化・多機能化の考え方も踏まえた施設所管所属による施設のあり方検討を進め、検討事例の蓄積とガイドラインの強化を継続的に図っていく。 ・加えて、老朽化が進む一般施設について、必要かつ適切なタイミングであり方検討を進めるための仕組みを構築する。
目標	① 6年度 ノーコードツールの導入検討・運用テスト 7～9年度 基本情報・資産カルテの維持（更新）・管理 ② 6年度 老朽化が進む一般施設について、必要かつ適切なタイミングであり方検討を進めるための仕組みを構築 7～9年度 老朽化が進む一般施設について、施設所管所属において、あり方検討実施の目安となる検討予定時期を設定

取組スケジュール

	6年度	7年度	8年度	9年度
①	ノーコードツールの 導入検討 -----> 運用テスト	基本情報・資産カルテの維持（更新）・管理		
②	必要かつ適切なタイミン グで施設のあり方検討を 進める仕組みを構築 ----->	老朽化が進む一般施設について所管所属により、 あり方検討実施の目安となる検討予定時期を設定		

（凡 例）制度設計等： -----> 実施： ——>